

平成21年度

# 学校自己評価総括表

平成21年度最終評価 まとめ

努力目標・評価項目・具体的方策・評価基準・総括評価

平成22年2月24日（水）

長崎県立北松西高等学校

# 平成21年度努力目標

- ◆ 小中高一貫教育を通じて、一人ひとりの能力を伸ばす教育を推進する。
- ◆ 他人を思いやる心豊かな「西高生」を育て、規律ある行動ができる人間の育成を目指す。
- ◆ 一人ひとりの進路実現のため、キャリア教育を充実し、実践的な指導に努める。

## (1) 小中高一貫教育の内容の充実を図る。

- ① 小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める。
- ② 郷土学習を進め、郷土に感謝し、郷土を愛し、郷土に貢献する心を育てる。
- ③ 小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める。

## (2) 学力の充実と向上を図る。

- ① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。
- ② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。
- ③ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。
- ④ 生徒の能力・適性・進路に応じたきめ細かい個別指導の徹底を図る。
- ⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。

## (3) 基本的な生活習慣の確立を図る。

- ① あいさつ、服装、掃除等のあり方について、全職員の共通理解をもって指導を行う。
- ② 学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する。
- ③ 安全教育の徹底を図る。
- ③ 公共物を大事にする心を育てる。
- ④ 生徒一人ひとりを正しく理解し、心と心が通じ合う教育を推進する。

## (4) 進路指導の充実を図る。

- ① 進路意識の高揚に努める。
- ② キャリア教育の充実に努め、きめ細やかな進路相談を行う。
- ③ 地域の期待と信頼に応えるよう、生徒一人ひとりの進路実現を図る。

## (5) 人間教育の推進を図る。

- ① 人間尊重の精神を養う。
- ② 生徒の実態を十分把握し、いじめのない学校づくりに努める。

## (6) ボランティア教育の推進を図る。

- ① お互いが支えあう社会の仕組みを学び、ボランティアの精神を理解させる。
- ② 地域社会に貢献できるボランティア活動を実践する。

## 【重点課題】

### <授業への集中と家庭学習の習慣化>

#### ※ 評価について（4段階評価で実施）

- 4：十分達成している
- 3：おおむね達成している
- 2：どちらかという達成されていない
- 1：ほとんど達成されていない

#### ※ 総合について（4段階評価で実施）

（年度末において評価）

- A：具体的方策がすべて 4
- B：具体的方策がすべて 3以上
- C：具体的方策に 2 がある
- D：具体的方策がすべて 2以下

平成21年度 長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】 <最終評価>

教育方針	◎ 明るく生き生きとした学校を創り、国際社会で活躍できる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。
努力目標	◆ 小中高一貫教育を通じて、一人ひとりの能力を伸ばす教育を推進する。 ◆ 他人を思いやる心豊かな「西高生」を育て、規律ある行動ができる人間の育成を目指す。 ◆ 一人ひとりの進路実現のため、キャリア教育を充実し、実践的な指導に努める。

本年度の努力目標

- (1) 小中高一貫教育の内容の充実を図る。 (2) 学力の充実と向上を図る。 (3) 基本的な生活習慣の確立を図る。  
(4) 進路指導の充実を図る。 (5) 人間教育の推進を図る。 (6) ボランティア教育の推進を図る。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	学校運営の円滑化	教務部 各分掌・学年・学科・教科間の意思疎通を図り、職員協力体制の強化に努める 教務に関する情報を整理し、効率的かつ継続的に活用できるシステムを構築する	①教職員が安心してできるように、計画にミスをなくす。 (教務の計画を事前に示し、ミスがなければ 3)	3	3	B	コンピュータ関係で、業務に支障をきたす点がいくらかあった。事務室と連携し、トラブルが発生した際、早い段階での対処を講じる必要がある。備品・消耗品・周辺機器の整備に関しても、余裕をもった対応が課題である。
			②教職員の役割が明確に伝わるように、わかりやすい実施要項を作成する。 (教務提出の実施要項にミスがなく、役割が明確に伝われば 3)	3	3		
			③教職員が快適に仕事ができるように備品・消耗品・周辺機器の整備をする。 (必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障をきたさなければ 3)	3	3		
広報活動の充実	広報活動を充実させることで、地域、保護者、同窓会、小・中学校との協力を得る	教務部	①「北松西高」だよりの発行 (年5回発行すれば 3)	4	4	A	前期に引き続き、「北松西だより」、Webページの発行・更新ができた。小中高一貫教育の公開授業ウィークに伴い、6名の教員の公開授業が行われ多くの方に来校いただけた。
			②授業参観の実施 (毎学期実施し、各学期10名以上の参観者があれば 3)	4	4		
			③Webページの定期的な更新 (年2回更新すれば 3)	4	4		
生徒及び教職員の健康の保持増進	生徒及び教職員の健康と保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる	保健部	①定期健康診断を実施し、治療および予防に努める。 (受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば 4)	3	3	B	歯科の受診率が昨年と比べて若干上がっている。しかし、まだ十分とはいえない。保健室利用は、1日平均0.8名(昨年1.2名)。体調・精神面で不調を訴え来室する生徒はだいたい決まっており、担任・家庭との連携が大切である。 新型インフルエンザへの対応を町内各学校や教育委員会、診療所と連携して行えたことで、流行拡大を防げた。
			②健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行う (計画通り実施した。問題解決につながるような援助ができれば 4)	4	4		
			③健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行う (毎月、臨時の情報提供を行った。計画通りに発行できれば 4)	4	4		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	施設・設備の健康・安全対策	保健部・事務部 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める	①保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 （点検を計画どおり実施した。問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4）	4	3	B	学校薬剤師による環境衛生検査は、照度検査以外は計画通り実施された。掃除は、今年度よりワックスがけを別日に設定し、特別教室も実施することができた。生徒・職員数が減っているため、清掃活動の工夫が今後とも必要になる。
			②学習環境の安全衛生点検を実施する。 （点検を計画どおり実施した。問題点に対して速やかな対応策を講じた場合4）	4	4		
			③掃除の徹底 （清掃活動を計画どおり実施した。問題点に対して速やかな対応策を講じた場合4）	4	4		
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の推進	教務部 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す	①小中高一貫教育に関する会議日を設定する。 （每学期1度「小中高会議日」を設定できれば 3）	3	3	B	小中高一貫教育の会議日や行事はうまく設定できた。公開授業ウィークの時間割設定・変更等も教務主任を中心として、小中との連絡調整が円滑に行えた。今後も行事等による時間割変更を計画的に行っていききたい。
			②小中高一貫教育に関する行事を設定する。 （小中高一貫の行事を年間3回以上設定できれば 3）	4	4		
小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める	生徒会 少子化が進行する中で、小中高一貫教育の利点を最大限に発揮できるよう行事や部活動のあり方を変革していく	①各共同で行う行事を改善する。 （昨年度実施された行事の反省を元に、小中高で十分に協議を重ね実施計画をたてる。）	4	3	B	各行事や部活動のあり方については、まだまだ様々な問題がある。現状では一応の結果と方向性を示していると思われる。次年度以降も生徒の動向を見ながら、生徒が少ないながらもより充実した活動ができるように体制を整えていかなければならない。
			②事後の反省をまとめ次年度に活かせる資料を作成する。 （一貫教育として行ったことの効果や反省点をまとめた資料を作成し、それぞれの校種の職員が共通に理解できるように努める。）	4	4		
			③生徒数減の現状に即した部活動のありかたを具現化していく。 （小中高の職員であらゆる条件を加味しながら協議を重ね、現在および将来の生徒の特性を生かせる部活動を、生徒・保護者・地域の方々に十分な理解を求めながら実現していく。）	3	4		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				中間	年度末	総合			
学力の充実と向上を図る	教育課程の充実	教務部 創意工夫を凝らした適切な教育課程の実践に務める	①目標にあった特色ある教育課程を編成する (年間計画通り教育課程委員会が開催できれば 3)	3		B	生徒の選択希望調査については、担任を中心に二者面談、三者面談を行い、生徒の進路目標に応じた科目の選択ができた。来年度より理科基礎が物理Ⅰに、器楽が2年間を通しての実施に変更となるので、本校の実情に応じた教育課程になっているかの検証を行っていきたい。		
			②生徒の志望進路達成に資する選択可能な講座を編成する (年間計画通り、選択希望調査をおこなえば 3)	3	3				
			③教育課程の編成にあたっては、定期的に点検する (7月と3月に点検し、計画通り実施していれば 3)	3	3				
総合的な学習の時間の充実	教務部 総合的な学習の時間を計画的に運営し、内容の充実を図る	①総合的な学習の時間の年間計画を立てる (学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば 3)	3		B	各学年の協力により、問題なく計画通りに実施することができた。やむを得ない変更等にも迅速に対応でき、それぞれの学年に見合った活動ができた。			
							②総合的な学習の時間を運営する (円滑に実施できるように、実施計画を調整したり、担当者へ連絡ができたれば 3)	3	3
							③今年度の反省をし、次年度の計画を立てる (担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば 3)		3
学力の充実と進路指導の設定	1 学年 総合的な学習の時間や個別指導を通じて、各人の進路設計を確立させる	①家庭学習の充実 毎日1時間30分以上の家庭学習時間を確保する。 (学習と生活の記録調査で50%いれば 3)	2	3	C	自身の進路に対する意識が高まり、学習時間に関しては増加が見られた。しかし、学習時間が学力と比例していないため、学習の方法についても工夫させる必要がある。また、各家庭では生徒の希望する進路を応援してくださる傾向が強いため、生徒にはその厚意に応えるだけの努力をさせていきたい。			
		②学力に応じた個人指導 進路や学力に応じて、添削などの個別指導を受けるよう指導する。(生徒が積極的に受講すれば 3)	2	2					
		③個人面談の充実 個人面談、家庭訪問を実施する。 (予定通り実施すれば 3)	3	3					
生徒の能力・適正・進路に応じたきめ細かい個別指導の徹底を図る	2 学年 学力の充実と進路指導の徹底を通して、自己認識を深めさせ、各生徒の適性に応じた進路設計を確立する	①それぞれの生徒が置かれている状況とその特性や能力を把握する (個人面談、家庭訪問をとおして各生徒を理解することができたか。)	3	3	C	各生徒の進路希望は、ほぼ固めることができた。補習・学習会・模擬試験・授業外の問題集なども積極的に取り組ませることができた。家庭学習については伸びてはきているが、まだまだ甘さを感じられる生徒もいる。上位層を引き上げ、下位層の底上げを両立しながら手を加えていかなければならない。			
		②各生徒の学力や進路に応じた個人指導を実施する (学力充実や進路実現のために添削指導や学習会などの具体的な指導を実施することができたか。)	3	3					
		③家庭学習の充実を図る (毎日1時間30分以上の家庭学習時間を確保させることができたか。)	2	2					

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学力の充実と向上を図る	学習習慣の定着	3 学年 学力の充実を図るため、学習習慣の定着をめざす	①添削指導や補充指導の機会を増やし、個々の能力に応じた指導を行う (個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の70%が判断した。70%以上が判断すれば 3)	3	4	B	年度後半に入り、各教科担任の添削指導の負担が増えたにもかかわらず、充実した指導により、確実に生徒たちの学力向上が図れた。また、進路決定した生徒も含め、学年全体が最後の学年末考査まで一生懸命に取り組めたことはよかったと思う。
			②家庭学習の習慣化を図る (80%以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついている。80%以上なら 4)	3	3		
	① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。 ② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。 ③ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。 ⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	<b>授業研究</b> 段階的・系統的で分かりやすい授業を研究、実践する	①授業計画について検討し、情報交換をする (学期に1回できれば 3)	4	4	A	2 学期の公開授業ウィークを通して、指導案や授業での指導内容についての意見交換を行うことができた。生徒の情報交換はもちろん、互いの授業についても意見を交わし、指導力向上に繋げていきたい。
			②学年・学級内の学力差対策について検討し、情報を交換する (学期に3回できれば 3)	4	4		
			③互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる (学期に1回できれば 3)	3	4		
		<b>小論文指導</b> 生徒の書く力を育成する	①記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる (各クラスとも3回実施できれば 3)	3	4	B	「少年の主張」では本年度もすぐれた文章を書いた生徒がおり、堂々とした態度で発表してくれた。小論文指導については、とくに3年生の授業や添削指導の中で重点的に行い、生徒の力を伸ばすことができた。
			②「少年の主張」を書かせる (推敲によって内容が深まった者が7割いれば 3)		4		
			③書くための情報収集の方法を学ばせる (年に1回実施できれば 3)		3		
		<b>小中高一貫教育</b> 小中高職員で協力し、継続的な指導の研究を行う	①公開授業を実施し、意見交換を行う (年に1回以上実施できれば 3)		4	B	2 学期の公開授業ウィーク期間を通して、高校3年生の進学クラスの授業の様子を見ていただいたり、中学校の古文の授業を参観し意見交換を行うことができた。今後も小中高国語科の連携を大切にしながら、互いに切磋琢磨していきたい。
			②各校種の現状について、情報を交換する (年に1回以上実施できれば 3)	3	4		
			③「まつかぜ」の制作を通して、作品を創造する喜びを体験させる。 (一人二首ずつ提出できれば 3)		3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題			
				中間	年度末	総合				
学力の充実と向上を図る	① 毎時間の授業の充実 ・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。  ② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。	地理 歴史	<b>基礎学力の充実</b> 授業方法の研究、教材研究の充実により、わかりやすい授業を行う。	①小テストの実施 (4回以上・・・4、3回・・・3 2回・・・2、1回・・・1)	4	3	B	継続して実施していきたい。		
			小テストの実施により生徒の知識の定着を確認し、授業に生かす。	②対外試験対策を利用した基礎知識の定着 (問題を解くこと によって知識の定着を図る) (3回以上・・・4、2回・・・3 1回・・・2、0回・・・1)	4	4				
		公民	<b>公民的資質の育成</b> 時事的問題に興味関心を持たせ、公民的資質を身につけさせる	①新聞記事などを随時ピックアップして、生徒に配布する (3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1)	2	3			B	今後も現代社会の授業では、基本的事項の学習だけでなく、現在進行している問題と基本事項をつなげた授業を展開できるように工夫していかなければならない。
			②授業の中で社会に関する時事問題を取り上げ、紹介・解説を行う (3回以上/月・・・4、2回/月・・・3 1回/月・・・2、0回/月・・・1)	4	3					
	④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。  ⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	数学	<b>基本的な計算技術の習得と習熟</b> 四則演算、整式計算ができるようになる 様々な方程式を解けるようになる	①生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や課題、帯タイム等を利用して解かせる (ほとんどの生徒が正解できたら 3)	3	3	B	帯タイムを利用して計算力の向上を図り、前期と比較して成果が見られた。今後は、計算だけでなく文章を読み取り、計算をしていく力を身につけさせていく必要がある。		
			②就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする (ほとんどの生徒が取り組んだら 3)	3	3					
		数	<b>図形の基本的な性質の理解</b> 角度を求めることができる 立体の体積や表面積を求めることができる 円の性質を理解する	①生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や課題、帯タイム等を利用して解かせる (ほとんどの生徒が正解できたら 3)	3	3	B	基本的性質は理解しているが、問題から図形がイメージできない生徒も見られた。問題からグラフや三角形を図示することの重要性を日頃から指導し、図示できるようになってきた。今後は、考える力や発想力を身につけさせたい。		
			②就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする (ほとんどの生徒が取り組んだら 3)	3	3					
	学	<b>数学への興味関心を喚起する</b> 自主的に家庭学習に取り組ませる	①生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や課題、帯タイム等を利用して解かせる (ほとんどの生徒が正解できたら 3)	3	3	B	小テストを取り入れ、家庭学習や考査前にも積極的に学習に取り組んだ。また、校外模試でも過年度比較して、わずかながら上昇が見られた。課題だけでなく小テストも踏まえて、今後は家庭学習のあり方や生徒の意識を高めていきたい。			
		②就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする (ほとんどの生徒が取り組んだら 3)	3	3						

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				中間	年度末	総合			
学力の充実と向上を図る	<p>① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。</p> <p>② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>③ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。</p> <p>④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。</p> <p>⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。</p>	<p><b>毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める</b></p> <p>3年間を見通した教育課程を考え、それぞれの学習計画を各单元ごとに十分な授業計画を練り授業に臨み、少人数の利点を発揮しながら個々の生徒の反応や理解度に対応した授業を展開する。</p>	①生徒の実態に合わせ各授業での学習内容の精選を図る (单元ごとの学習内容を明確にし、受講生徒全員が授業内に内容を理解できたことを確認しながら授業を進めることができたか。)	3	3	B	<p>本校の生徒の進路状況に合わせた内容を重点的に実施した。また、少人数の利点を生かし、それぞれの生徒の理解を確認しながら授業が展開できた。しかし、学習内容の定着についてはまだまだ方策を考えていかなければならないと思われる。</p>		
			②実験観察を積極的に行い興味・関心および理解を高める (半期に 3回以上・・・4、2回・・・3 1回・・・2、0回・・・1)	3	3				
			③定期的に学習内容の検討会を実施する (各学期毎に生徒の進路や理解度、指導計画の見直しなどについて検討会を実施し共通理解を図っているか。)	3	3				
		<p><b>学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める</b></p> <p>生徒の学力を正確に認識し、それぞれの弱点の克服をできるような学習指導計画を立てる。また、進路決定時期に照準を合わせ必要な学力を身につけさせるための個別指導などを実施する。</p>	①週末課題を実施する (半期に10回以上・・・4、7～9回・・・3 3～6回・・・2、3回未満・・・1)	3	3	B		<p>生徒の中には、小学校高学年でのつまずきを感じる者もいる。授業の中で、比例・分数・小数・指数・濃度の計算などの基本的な計算に時間を割いて指導した。今後も計算力をつけさせて苦手意識を払拭させたい。</p>	
			②小テストを実施する (1单元 3回以上・・・4、2回・・・3 1回・・・2、0回・・・1)	4	3				
			③つまずきのある生徒の習熟度と進路目標に合わせた指導をする (個別の指導を充実させ、定期試験や校外模試などでそれぞれの生徒の目標とする結果を達成させることができたか。)	3	3				
		<p><b>小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める</b></p> <p>小中高の職員で学習内容や行事・地域での活動などを精選する、また教育課程の見直しも含めて十分な検討をする。</p>	①小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。 (小中高12年間を見通した系統的・継続的な理科教育を進めるための情報交換と学習内容検討の場を各学期に1回はもつ。)	3	4	C			<p>特に化学分野について小中高それぞれの学習内容の中で、系統的に指導する内容を確認することができた。今後、他の分野についても協議を重ねていきたい。</p>
			②シラバスを作成し、計画に基づいて実施する。 (シラバスを作成し、ほぼ計画通り実施・・・4 シラバスを作成し、7割程度実施・・・3 シラバスを作成したが実施できなかった・・・2 シラバスを作成しなかった・・・1)	3	3				
			③公開授業の実施 (小中学校理科担当も参加し、2人とも年1回以上・4 2人とも年1回以上・3、1人のみ年1回以上・2 全く実施されず・・・1)	3	2				



評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学力の充実と向上を図る	① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。	基礎体力の向上を目指す 基礎体力を向上させ、学校生活の充実を図る。	①授業に8分間走を取り入れる。 (実施率が、65%以上であれば 3)	3	3	B	昨年度から実施している8分間走であるが、昨年度と比較して各学年ともに積極的に取り組んでいた。マラソン大会においても、男女ともタイムが伸びていた。
			②8分間走記録シートの作成・活用 (記録シートを使い自己記録や、通算走行距離を知ることにより、自己の体力を把握し、生涯にわたり健康な生活を営む基礎体力の向上を図らせる。)	4	4		
	② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。	新体力テストの活用 新体力テストを活用し自己の体力を把握する	①新体力テストを実施する (新体力テストを5月までに実施し、95%以上の生徒が実施できたら 3)	4	/	B	今後の課題として、さらに分析を行い、体育の授業を通して力をつけることができればと思っている。
			②新体力テスト結果の活用。 (テスト結果を得点化し、成績に反映させ、生徒への確に情報提供を行う。)	3			
	③ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。	健全な健康の価値観を形成させる 保健的な知識を身につけ、健全な健康の価値観を身につける	①正しい知識に基づいた性の在り方について理解させる (性についてのアンケートを実施し、3学年に性教育を行う。)	/	4	B	3年生に対し、卒業前に性教育ができた。生徒は、自分を守ること、同時に相手も守ることが大切だと気付くことができたようだった。
			②視聴覚教材を積極的に活用する (生徒に視覚的に情報を伝え、より理解度を高めていく。)		3		
	④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。	家庭生活を営むために必要な能力を身につける 家庭生活について、自立して主体的に営む視点を身につける	①家庭生活の中にある問題点に気付く (家庭生活に関するテーマについて調べ、まとめさせることができたなら 3)	/	1	C	1. 調べ学習をする機会を作ることができなかった。授業計画を含め、実施の可能性を検討する。 2. 基礎にとどまらず応用技術が必要な作品を制作することができた。完成度はそこまで高くないまでも、応用作品を完成させたことは素晴らしい。ただ、経験主義だったことは否めず、来年度は系統性を高めることが課題。 3. 非常に丁寧かつ熱心に取り組むことができていた。次年度は生徒自身によるレシピ考案・調理の機会を増やしたい。
			②被服製作の実践 (基礎的な技術を使って作品を完成させることができたなら 3)		3		
	③調理の工夫と実践 (安全に配慮し、栄養的に満たされた調理実習を行うことができたなら 3)		/		4		
	⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	小中高間での連携の活発化 共同して教材研究を行う		①共同の授業研究 (3時間以上の授業研究会を3回することができたなら 3)	1	1	D
②教材・授業案の蓄積、共有化 (新たに試みられた授業内容の授業案化、データ化、教材の蓄積ができたなら 3)			/	2			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題		
				中間	年度末	総合			
学力の充実と向上を図る	<p>① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。</p> <p>② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>③ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。</p> <p>④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。</p> <p>⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。</p>	芸術	協同的な学びの実現 学び合う関係、学びの場としての教室の雰囲気構築する	①小集団での活動の実践 (3~4名の小グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学びあう関わりが築かれた。)	3	3	B	器楽演奏では、積極的な生徒の取り組みが見られた。「聴きあう」関係を設定しなければ、じっくりと聴く姿勢が保たれない。自分も演奏する立場として、演奏、演奏者に対して「聴きあうマナー」を身につけさせなければならない。	
				②「聴きあう」場の創出 (互いに聴きあう発表などを通じて、相互に聴きあう関係が築かれた。)	3	3			
			生徒の主体的音楽表現能力の育成 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す	①個別または小集団での実技試験の実施 (個別または小集団での実技試験を実施することができた。)	3	3	B		前期に比べ回数は少なかったが、それぞれ実技試験を実施することができた。視唱、聴音の実施が着実にソルフェージュ力の向上に繋がっている。今後はつけた力を表現活動に応用させるような計画が必要である。
				②ソルフェージュ力向上のための取組 (視唱、聴音、歌唱や器楽曲の階名唱指導を実施することができた。)	3	3			
		生徒の主体的音楽鑑賞能力向上 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な鑑賞能力の育成を目指す	①鑑賞と表現領域との関連性を持たせた授業の展開 (鑑賞、表現の両領域を関連づけ、学習の深化を図ることができた。)	3	3	B	前期に引き続き、授業前や作業の時間などに関連曲などを流すことで雰囲気を高め、自然な形でやる気を起こさせることができた。2学期以降は鑑賞授業を積極的に扱うことで、音楽芸術を身近に感じさせ、興味を持たせることができた。鑑賞授業や教材で感じ取ったものをどのように表現に結び付けられるかが課題である。		
			②相互の演奏鑑賞や作品発表の場を設ける (生徒相互の演奏鑑賞、作品の鑑賞の機会を設けることができた。)	3	3				
		英語	英語に関する基本的な知識の習得 基礎学力の定着に努める	①小テストの実施 (構文や単語の小テストを継続的に実施し、6割の生徒が7割以上の得点率だった。7割以上の生徒が7割以上の得点率ならば 4)	3	3	B	各学年で小テストにより、基本事項の定着を図った。生徒たちの取り組み状況も良かった。	
				②各種テストのやり直しノート提出 (各種テストのやり直しを確実に提出させた。)	4	4			
			英語学力と英語運用能力の向上 生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める	①進路目標に応じた英語指導の充実を図る。 (考査や模擬試験の結果を分析して指導に反映している。効果的な指導ができれば 4)	3	3	C		第2回英検の受検者は2名であった。第3回については1年生21名、2年生5名が受検した。結果はまだ出ていないが、冬休み課題や授業の中でも英検対策を行った。
			②検定などを有効に利用し生徒の意欲を高める。 (英検などの検定の告知を十分に行い、受検人数を増やす事ができた。また、受検指導が十分に行われ、8割の生徒が目標とする級に合格できた。)	1	2				
	③あらゆるレベル・ニーズに合わせた指導を行い、生徒の意欲を高めるとともに目標達成を助ける。 (各生徒のレベルに対応できる授業や教材の工夫をした指導がなされている。)	3	3						

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				中間	年度末	総合		
学力の充実と向上を図る	① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。 ② ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。 ③ 学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ④ 生徒の能力・適性・進路に応じた細かい個別指導の徹底を図る。 ⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	英語	<b>授業内容と教科指導の充実</b> 生徒の英語に対する関心が高まるようにわかりやすい授業を行う	①綿密な指導計画と十分な教材研究によって生徒が学習意欲を高め、理解を深められる授業を行う。 (計画に従い、十分な教材研究を行い授業に臨んだ結果、生徒の学習意欲が高まり、理解が深まった。効果的な指導ができ、8割の生徒が予習をして授業を受け、英語の理解が深まれば 4)	3	3	B	教材を工夫し、各クラスの状況に応じた授業に努めた。アメリカ修学旅行団との交流においては、英語を用いて積極的にコミュニケーションをはかろうとするなどの成果が見られた。
			②ALTと協力し合い、生徒が英語学習を通して文化に興味を持ち、理解を深める事ができる授業を展開する。 (ALTと十分に話し合い、授業計画を立て、その計画に沿って効果的に指導ができた。また、生徒が楽しみながら積極的に授業に参加していた。効果的な授業が展開でき、8割の生徒が積極的に授業に参加していれば 4)	3	3			
基本的な生活習慣の確立を図る	基本的な生活習慣を身につけさせる	生徒指導部 校則を守り、充実した学校生活を送る	①端正な服装・頭髪を心がけさせ、清潔な容姿を身に付けさせる。 (毎月1回、服装頭髪検査を実施、各自が日頃から容姿を正すことができるように指導していく。)	4	3	B	後半になって基準に達しない3年生が多くなった。各学年、指導される生徒が固定されてきている。 集合時間の厳守は良く、挨拶も前期よりも良くなってきた。	
			②挨拶の励行、時間の厳守の態度を養う。 (講演や、集会等において、挨拶の徹底、集合時間の5分前行動を心がけるよう指導していく。)	3	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
基本的な生活習慣の確立を図る	保護者、地域社会との連携	生徒指導部 保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	①夏季休業中に地域・保護者と合同で夜間巡視を行う。 (夜間巡視を計画し、実施できれば 4)		4	B	PTAや地域、警察と連携し、様々な活動をスムーズに行うことができた。次年度も保護者・地域、警察の協力を得ながら進めていきたい。
			②長期休業中前に保護者・生徒に「長期休業中の心得」を配布する。 (「長期休業中の心得」を年に3回配布し、保護者へ学校教育への理解・協力をお願いし、生徒へ北松西高生としての自覚を持たせる。)	3	4		
			③問題行動を未然に防ぐために、地域と情報交換を行う。 (各種学校・警察・健全育成会等と情報交換し、地域社会と協力して生徒の健全育成に取り組む。)	4	3		
生徒一人ひとりを正しく理解し、心と心が通じ合う教育を推進する。	生徒会 生徒会執行部・中央委員会・専門委員会および部活動の連携を密にして、生き生きとした生徒会活動を目指す	①生徒の自主的活動を支援する。 (行事や部活動において生徒の健全な活動を促すような適切な支援ができたか。)	3	3	B	与えられた役割はよく考えて行動してくれるようになった。自発的な活動も徐々に見られるようになってきているが、まだ不足がちである。残りの任期で、個々の生徒の特性を生かし、活発な生徒会活動ができるようにしていきたい。	
			②各組織における適切な努力目標を設定する。 (生徒会執行部・中央委員会・専門委員会および部活動におけるそれぞれの努力目標を設定し、達成感を体験させることで意欲の増大を図ることができた)	3			3
			③一人ひとりの役割や自己目標を明確にする。 (それぞれの生徒が目指すべき適切な目標を設定し、それに向けて努力する姿勢を養う。)	3			3
自律の精神をもち、学校生活に積極的に臨む姿勢を確立する	1 学年 自身の生活習慣を自主的に確立する	①端正な服装・頭髪への心がけをもたせる (服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。90%の生徒が合格すれば 3)	3	3	B	文化祭や体育祭などの学校行事を経て、徐々にではあるが積極性が見られるようになってきた。しかし、まだまだ周囲の動向に合わせる傾向が強いため、様々な機会を通して独立独歩できるよう指導していきたい。容儀面に関しては、概ね問題はなく、掃除も毎日雑巾がけするなどよく頑張っている。今後も継続させたい。	
		②挨拶の励行 (積極的に挨拶を行う。日常的に挨拶を行う姿勢があれば 3)	2	3			
		③清掃活動への積極的な取り組みをうながす (清掃活動に対し積極的に取り組む。80%以上の生徒が取り組めば 3)	3	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
基本的生活習慣の確立を図る	学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する	2 学年 校則を守り明るく充実した学校生活を送り、社会に通用する人間形成を図る	①端正な服装・整髪を心がけさせる。 (毎月の整髪服装検査において80%の生徒が合格するか。)	2	3	B	全体的には、言葉遣いや整髪などを正そうという意識が向上していると思われるが、一部の男子がその場だけをどうにか済ませようとする態度が見られた。普段から声をかけながら継続的な指導が必要である。
			②人と接するときのマナーの向上を図る。 (目上の人と接するときの言葉遣いや態度が身についているか、また決められた時間を見越した行動ができているか。)	3	3		
			③自転車通学での安全性とマナーの向上を図る。 (自転車の安全整備をきちんと行うことができたか。)	3	3		
基本的生活習慣および落ち着いた生活態度	3 学年 基本的生活習慣を身につけさせ、社会に対応できる人物の育成をめざす	①安易な欠席をしないよう指導する (月間の遅刻・欠席者数がクラスの10%以下である。10%以下であれば 4)	4	4	B	進路決定後の生徒の一部に、遅刻や服装の乱れが見られたものの、生活態度は概ね落ち着いており、最高学年として節度ある行動をとることができた。	
			②社会生活に対応できる容儀の指導を行う (各学期2回服装検査を実施し、90%の生徒が検査項目を守っている。90%以上なら 4)	4			3
			③清掃活動を徹底させる (毎日の清掃活動に生徒の90%以上が真剣に取り組んでいる。90%以上なら 4)	4			4
進路指導の充実を図る	学力の向上	進路指導部 補習や模試などを通して学力の向上をめざす	①補習に積極的に取り組ませる (月間の遅刻・欠席者数がクラスの10%以下であれば 4)	4	4	A	予定した補習・模試をすべて実施できた。大学別オープン模試も積極的に実施した。
			②模試を計画的に実施し、活用する (計画通りにできれば 4)	3	4		
	計画的な進路指導	進路指導部 進路検討会などを通じて進路指導に計画性をもたせる	①進路検討会の実施 (検討会の結果を基に指導の見直し等ができれば 4)	4	4	A	進路に関する校内研修はまだ実施していないが、進路検討会及び出願校検討会は有意義なものとなり、生徒の具体的な指導に生かすことができた。
			②進路に関する校内研修の実施 (年度末に進路指導に関わる校内研修を実施し、共通理解が図れれば 4)				
	進路意識の向上	進路指導部 情報の収集・提供を通じて生徒の能力・適性に応じた進路達成をめざす	①進路講演会の実施 (講演会を実施し、生徒の満足度が高ければ 4)			D	「進路のしおり」を発行できていないが、クラスに応じた進路情報を提供することはできた。進路講演会は2月16日に実施した。
			②進路情報の提供 (「進路のしおり」等を発行し、適切な進路情報を紹介できれば 4)	1	2		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
進路指導の充実を図る	進路希望の実現	3学年 個々の進路目標を明確にし、 進路達成に向けての取り組みを 充実させる	①生徒が必要とする情報を適宜提供し、進路意識の向上を図る (80%以上の生徒が具体的な進路目標をもつことができた。80%以上であれば 3)	3	4	A	各担任および学年団で生徒との面談や情報提供を重ねた。その結果、生徒一人ひとりが明確な目標を持って就職試験や進学のための受験に臨むことができた。特に就職希望生徒の進路先が全員決定したことは、現在の厳しい状況にあって、大きな実績をあげることができたと思う。
			②個人面談・三者面談を実施し、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。 (各学期2回以上面談が実施できた。2回以上実施すれば 3)	3	4		
			③オープンキャンパスや説明会への参加を奨励し、正確な情報をもとに進路決定させる。 (50%以上の生徒が参加した。50%以上なら 3)	3	4		
人間教育の推進を図る	いじめ根絶 担任・カウンセラーとの 連携	生徒指導部 学年及び分掌との連携を密にし、 生徒の持つ問題点や悩みの 解消に努める	①気になることがあれば、直ちに各先生方と連絡を取り合う (情報交換会を行う。)	3	4	B	情報交換を必要に応じて行い、生徒理解に努めることができたと思う。ブログに関する問題が起きたが、関係職員のスムーズな対応で、いじめにつながることもなく対処できた。
			②いじめ防止に生徒が自主的に取り組む (学校行事や、部活動等を通じて協調性を育み、お互いを尊重する心豊かな生徒を育成する。)	3	3		
交通マナーの遵守を徹底させる	生徒指導部 自転車乗車マナーの向上	①自転車整備を心がけ、事故防止に努める (年2回の自転車点検で合格が80%以上で 3)	②自転車通学マナーの向上により、交通ルールの遵守を目指す (自転車指導を徹底し、交通ルールを遵守する態度を育てる。)	2	3	B	前期は自転車のマナーについて指導することが多かったが、後半になり改善された。駐輪場は整理整頓されているが、さらに使い勝手が良い使用の仕方を考えていきたい。
			③駐輪場の整理整頓 (駐輪場において各生徒駐輪スペースを明確にし、並べて置くように指導する。)	3	4		
			①生徒会執行部を中心にして各行事を立案・実施する (行事終了後、生徒・職員の感想や評価の声をもとに、満足度および成功・失敗の要因を確認し次の機会に活かす姿勢が見られたか。)	2	3		
人間尊重の精神を養う	生徒会部 学校行事や部活動などの自主的 活動を通して協調性や連帯感など を深めるとともに、他を思いやる 心を養う	②生徒会活動に一般生徒が協力する形で各行事を実施する (各行事を通して、生徒全員が一体感や連帯感を感じることができたか。)	③各部活動の支援・応援に積極的に取り組む (部活動に積極的に取り組み結果を出そうと頑張っている生徒を支援・応援しようとする姿勢が見られたか。)	3	3	B	ほとんどの生徒が、各行事や部活動に積極的に取り組み、その中でリーダー的な存在も育ちつつある。今後も、各生徒に課題意識を持たせ、一人ひとりの長所を存分に生かせる場を作っていかなければならない。
			①自転車整備を心がけ、事故防止に努める (年2回の自転車点検で合格が80%以上で 3)	2	3		
			②自転車通学マナーの向上により、交通ルールの遵守を目指す (自転車指導を徹底し、交通ルールを遵守する態度を育てる。)	2	3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
人間教育の推進を図る	集団の中の「個」としての積極的な活動	1 学年 高校生としての自覚を持たせ、状況に応じた判断・行動がとれるようにする	①学級活動への積極的な参加 ホームルーム活動に積極的に参加している。 (各係活動が日常的に機能していれば 3)	3	3	B	日々の学級活動に意欲的に臨もうとする姿勢が乏しい印象を受ける。率先して日常生活に目的意識を持つとすることが少なく、いまだ指示待ちの様子が多くみられる。ただし部活動をはじめ学校行事にも、自身のなすべきことが明確であれば非常に協力的に活動することができる。今後は、個人単位で目標が設定できるように指導していきたい。
			②部活動への積極的な参加 生徒が積極的に部活動に参加している。 (日常に80%以上の生徒が活動していれば 3)	4	4		
			③学校行事への積極的な参加 積極的に参加し、各学年と協力できた。 (協力的な姿勢が見られたら 3)	3	3		
小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める	2 学年 高等学校の中堅学年として自覚を持たせ、地域性を活かした明るい校風の樹立を目指す	①学級活動への積極的な参加を図る。 (クラス委員や係・清掃・その他の学級活動に積極的に参加していたか。)	3	3	B	体育祭では中学生をリードし立派なブロック活動ができた。また、修学旅行での研修態度も統制がとれており精神的な成長が窺えるものであった。部活動や学級活動でも、ほとんどの生徒に積極性が見られるようになっている。	
			②部活動への積極的な参加を図る。 (日常的に90%の生徒が積極的な活動ができていたか。)	4			4
			③学校行事への積極的な参加を図る。 (積極的に参加し各学年や小中学生と協力できたか。)	4			4
学校行事におけるリーダーシップの発揮	3 学年 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる	①学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す (行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと教員の70%以上が判断すれば 3)	3	4	A	体育祭や西高祭などの学校行事において、見事にリーダーシップを発揮してくれた。最高学年としての責任を果たせたと思う。	
ボランティア教育の推進を図る	ボランティア精神の理解 ボランティア活動を実践する	家庭科 ボランティア活動を実践する	①西高祭で食物バザーを実施する (能動的かつ責任を持って活動できたら 3)		3	C	1. 担当生徒は準備、当日作業ともに積極的に活動していた。来年度は能動性・積極性を高めるために、実施規模、作業の明確化、企画者としての参加等について検討していく。 2. 授業数、部活動等の兼ね合いを考え、本年度の実施は見合わせた。実施することは可能と考える。来年度はぜひ実施したい。 3. 日程が西高祭と重なったため実施できなかった。出品のためには事前計画の工夫が必要。
			②チャリティーバザーを実施する (年2回、食物でのチャリティーバザーを実施できたら 3)		1		
			③地域イベントへの参加 (小値賀郷土料理等コンテストに出品できたら 3)		2		
生徒指導と教育相談	生徒の意識と実態の把握	保健部 (教育相談) 機会をとらえて、生徒の実状をつかみ、効果的な指導を行う	①諸検査・各種調査を実施し生徒の実態をつかむ (計画通りに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと 4)	3	4	B	悩み調査を実施した。調査実施時点では、悩みを抱えている生徒はいなかったのがよかった。次年度は年度初めに実施しているクレペリン検査やΣ検査をやめ、新たに特別支援教育も視野にいれた検査に代えることを検討していきたい。
			②個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う (個人面談やカウンセリング活動を実施したら 4)	4	4		
			③諸検査・各種調査の有効的な活用をはかる (諸検査の見方・考え方や各調査の分析結果を全職員で研修できたら 4)	2	3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
生徒指導と教育相談	問題を抱える生徒の早期発見と対処	保健部（教育相談） 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める	①担任との情報交換、諸検査の活用で問題を抱える生徒を早期発見する (担任との情報交換の場を3回以上設定し、生徒の実態を知る手立てをしたら 4)	4	4	A	悩みを抱える生徒に対して、担任および関係職員との連携を図り、個人に適した対応ができた。
			②学年・保健室と連携し、問題を抱える生徒のカウンセラー活動を行う (学年・保健室と密に連携し、生徒の実態を知る機会を3回以上持つことができたなら 4)	4	4		
特別支援	特別支援教育に関する研究および実態把握	保健部（特別支援） 特別支援教育について教員の研修に努めるとともに、特別支援を必要とする生徒の実態把握に努める	①特別支援教育に関する職員研修の実施 (専門の講師による特別支援教育研修を実施したら 4)	2	4	B	今年度も、小中高一貫教育特別支援教育研修会を実施することができた。ただし、年度末という慌ただしい時期の実施であるという点、研修会のテーマで焦点を絞り切れていない点などを反省すべきところがある。来年度に活かしていきたい。
			②特別支援教育を必要とする生徒の実態把握 (職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握をうながしたら 3)	3	3		
学校教育活動の環境づくり	学校教育活動が円滑に行える環境づくりに努める	事務部 施設の安全管理、整備、予算の効率的な執行を通じて学校のよりよい環境づくりに取り組む	①施設の安全管理 (生徒が学校の施設の不具合により、怪我や危険な目に合うのを防ぐ。)	4	4	B	家庭科室試食台、物理室カーテン等の数カ所の改修は完了したが、まだ老朽化した施設、設備の更新が完了していない箇所も見受けられる。来年度の課題として取り組んでいきたい。
			②施設設備の整備 (学校の老朽化した施設設備の更新。)	3	3		
			③予算の効率的執行 (令達された予算の執行状況を前年度と毎月比較しながら、効率的な執行に努める。)	4	3		